



# 創薬はまだ、立ち止まれない。

## 新薬が完成すれば 社会全体の利益に

有効で安全な新薬の登場は、患者さんのQOL(生活の質)の向上や経済的な負担の軽減、医療費の抑制につながります。また日本では、社会の担い手の減少も課題となっています。有効な新薬の導入により患者さんや家族が働けるようになることで、社会全体に大きな利益をもたらします。

## 研究開発には 膨大な時間と費用が

1つの新薬が患者さんのもとへ届くまでには、新規物質の発見から基礎研究、非臨床試験、臨床試験、審査など数多くの段階があり、平均して9~16年かかるといわれています。そのような長年にわたる研究開発を支えるためには、多額の研究開発費が必要です。また、長期にわたる研究開発の多くは実を結ばないという現実もあります。

## 新薬の創出により「患者さんを救いたい」という熱い気持ちは同じ

日本製薬工業協会、米国研究製薬工業協会(PhRMA)、欧州製薬団体連合会(EFPIA)の3団体が共催し、「創薬研究の実情とイノベーションの貢献」と題した勉強会と記者会見が11月2日に都内で開かれました。日本や海外の第一線で活躍する研究者5人が登壇し、創薬研究がもたらす可能性に触れ、「最先端の研究成果の報告」を行いました。

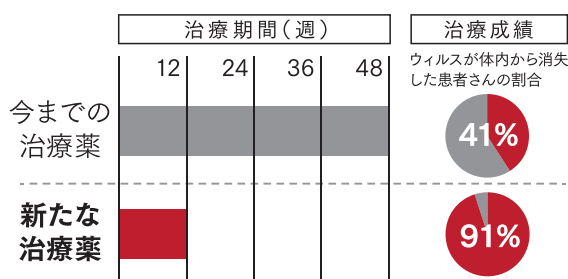
世界的な医療費の抑制という厳しい経営環境下、日本製薬工業協会の中山譲治会長は、「新薬のイノベーションで病気が治癒し、働く人が増えると社会保障費の負担軽減、労働人口減少の抑制、GDP(国内総生産)上昇、さらには新たな経済成長の可能性が生まれる」と創薬の社会的価値を説きました。

勉強会には多くの国会議員が参加し、「国家財政でどうするか。創薬開発において、国家財政を踏まえ、国に何ができるか考えている」と政策として向き合う意義が語られました。「世界中の患者さんのために創薬開発に十分な環境が必要。だからこそ私たちはここに集まりました」。日々、イノベーションと格闘する研究者の声に会場から熱い拍手がわき起こりました。



### 新薬による治療率向上の例

#### C型肝炎における治療率の変化



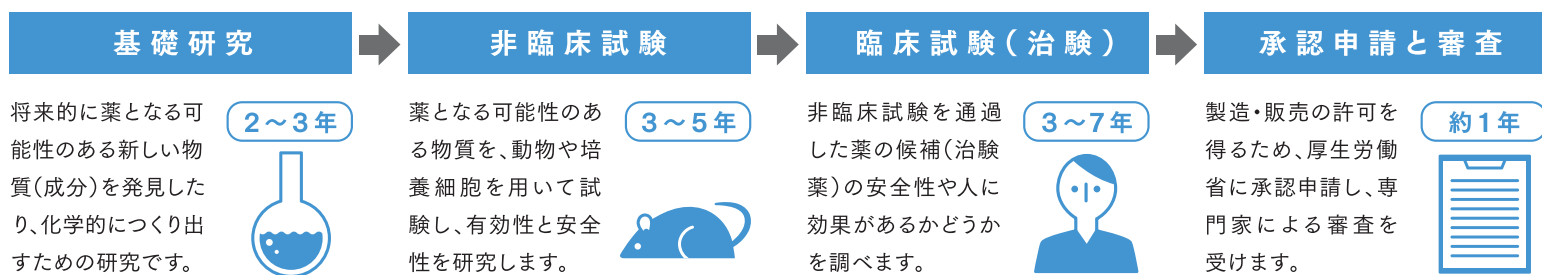
出典：N.Engl.J.Med. 370:1879-1888, 2014 Health, Technol. Assess. 4, 1-67をもとに作成

左の図は革新的医薬品がもたらす医療的便益の具体例です。C型肝炎に対する新たな治療薬の登場によって、2010年頃までの薬物療法よりも治療成績が向上し、治療期間も短縮しました。

## 世の中にはまだまだ 闘うべき病気がある

例えば、アルツハイマー病やがん、希少疾患。まだ有効な治療法が確立されておらず、革新的な新薬の登場が強く求められている疾患があります。そんな病気と闘う患者さんのために、日米欧の製薬会社が一丸となって新薬の創出に挑み続けているのです。

### たくさんの試験や審査をクリアしたもののだけが「新薬」として世に出ます



私たちは研究開発型製薬企業が加盟する日米欧の団体です。

